

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 3月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200866		
法人名	有限会社 サカコーポレーション		
事業所名	グループホームガーデンの家		
所在地	広島県広島市安佐南区緑井七丁目5-11 (電話) 082-962-6541		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200866-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200866-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との繋がりを大切にし、夏祭りや餅つき等の行事や認知症café（ひるcafé）を開催したり、地域の祭りの時には事業所へ来て頂いたり地域との交流機会を作っております。地域との絆を深め、地域に建っている「特別な場所（施設）」から、「日常的にある場所」となる事を目指しております。入居者様お一人おひとりに合った生活を送って頂けるよう、「役割作り」や「趣味活動」等を通じて、その人らしさの実現を目指すと共に、ユニット間での共有時間を増やす事で他ユニットの入居者様との交友幅を広げ、新たな関係性が構築出来るよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の特徴的な取組みとして第一に「事業所と地域とのつきあい」に深化が見られる。即ち、事業所主催で隔月に認知症café（ひるcafé）を開催し、家族や地域住民数名の参加を得ている。テーマも介護サービスから認知症の方の行動等多岐に亘り、介護保険制度理解の一助に繋がったり、認知症になった時に相談し易くなった等の反響を得て地域との絆作り強化にむけて取り組んでいる。第二に「身体拘束をしないケアの実践」に深化が見られる。即ち、研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、毎月の身体拘束廃止委員会や隔月の運営推進会議を通して事例検証を行っている。運営推進会議では拘束例の現状と検討内容を開示し、利用者の行動に合わせ夜間のみフロア通路を施錠した取り組み経過を会議参加者に報告する中で拘束の適正化に向けた検証をしている。

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行ない、倫理綱領という内部研修でも理念の下、研修を進めている。グループの理念と共に地域密着事業の運営理念も管理者、リーダー、職員で朝礼時に唱和して全職員が共有している。	法人の経営理念、地域密着事業の運営理念を事業所理念とし、事業所の年間取組み目標の策定と半期毎の検証を行っている。その理念を所内に掲示し朝礼時に唱和してケアを実践する上での原点としている。又、理念を踏まえ職員個人も半期目標を設定し、半期毎の個人面談で理念の達成度を振り返り実践に繋げるべく気づきを促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流行事として夏祭りや餅つき会、プールの開放などを開催し、地域住民が気軽に来所出来るよう取り組んでいる。 これからの季節に向けて、散歩や地域清掃等、外での活動を日常的に行えるよう、体制作りを進めている。	日頃から近隣へ散歩・買い物・ゴミ出し等に出かけ、町内会に加入してとんど祭り等の地域行事に利用者と参加している。又、事業所主催の夏祭り・餅つき・認知症カフェ等へ家族・地域住民・専門学校生のボランティアを受入れる相互交流もある。ミニプール開放等で子ども達との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	奇数月に開催しているひるCafé（認知症Café）で地域住民が参加され、様々なテーマの元、開催している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に開催している。町内会長や民生委員会、社会福祉協議会会長やご家族代表などに出席いただき、日々の取組み、地域交流行事などの報告を行っている。また、町内会長から出た意見をひるCaféのテーマに反映したり、行事内容の紹介を通じて、次回イベントの協力体制の構築に繋げている。	会議は定期的開催され、民生委員・学区社会福祉協議会会長がほぼ毎回、家族代表・町内会長が時々参加している。会議では事業所の現況報告や相互の意見交換が行われ、身体拘束状況の検証も行っている。又、認知症カフェの活動内容や方向性等に対する助言を以後の取組みに活かしている。	参加していない家族との「事業所運営に関する情報」は運営懇談会（家族会）を介して共有しているが、会議は土曜開催のため市町の参加はない。地域包括支援センターへの議事録報告も検討中であるが、可能な日程調節により市町の参加を得る案等、多様な視点による会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営上、不明な点は電話連絡などで質問し、協力関係を築いている。	市町担当者とは日頃の相談・連絡や運営推進会議の開催報告書の提出、集団指導・認知症・看取り等の研修会に参加して協力関係を構築している。又、広島市小規模事業所介護人材育成支援事業を活用し、職員から募集したテーマに沿った外部講師による研修を開催して職員の資質向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠に関しては、線路に隣接しているため施錠をしている。現在、1名の入居者様に対し、夜間帯のみフロアの入り口を施錠する対応を取っているが、現場業務を行う中で、定期的に身体拘束に対しての意識の共有が必要である。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、毎月の身体拘束廃止委員会や隔月の運営推進会議を通して事例検証を行っている。玄関は事故防止のため施錠、利用者の行動に合わせて夜間のみフロア通路を施錠する他、床センサーマットを設置し拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所の内部研修や偶数月に開催される倫理綱領という社内研修で、虐待について研修を実施している。現場の状況によってはスピーチロックにあたる状況が見受けられる。 職員のストレスコーピングの為、メンタルヘルスの内部研修を行った。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学べていない為、来年度に参加後、全職員へのフィードバックを予定している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前から適宜必要書類などの説明を行ない、ご家族に不明点が生じた際には、電話連絡などでも解決出来る体制を作っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回の運営懇談会を開催し、ご家族からの要望や疑問点を聞き取り、アンケートなども活用している。	利用者の意見は日々の会話の中で、家族とは面会・年2回の運営懇談会・家族アンケート等を介して管理者他が把握する様に努めており、連絡ノート他で共有をしている。家族からの要望で看取りに向けた体制整備の状況や受診票を作成して家族との受診情報の共有化に繋がった経緯がある。	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ間のチームミーティング、リーダーミーティング、管理者とリーダーとの部門ミーティング、代表者と管理者とのミーティングを月にそれぞれ開催しており、現場の声が代表者へも入るような仕組みを作っている。	毎日の申し送り、毎月の職員会議・各種委員会、管理者との年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員提案で水分摂取の意義を根拠づけた資料に基づき個々の目標水分摂取量を設定した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期に一度、職員一人ひとりの目標を立て、達成具合に応じ賞与に反映している。職員のモチベーションアップに繋がるよう、基本給ベースから努力・実績ベースに変更をして取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修の開催、外部研修への参加を勧めている。しかし勤務の都合上、参加できない職員が発生した為、広島市小規模事業所介護人材育成支援事業を活用し、職員からテーマを募り、そのテーマに沿って外部から講師に来て頂き、研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループの他事業所職員との交流はあるが、外部事業所とは交流が作れておらず、今後は外部事業所との交流作りの機会を模索していく必要がある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規利用者は、併設してる小規模多機能センター緑井からの入居のため、事前に小規模多機能側から情報を発信、情報受け取り後についても職員同士でスムーズな情報共有が実施出来た。		

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>管理者・計画作成担当だけでなく、ユニットリーダーも窓口となり、現場職員もご家族とのコミュニケーションを密に取っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>段階を踏んでケアを提供していくよう職員同士が日々話し合いを実施している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者様同士の関係が築けており、出来る人が出来ないを手伝ったり、声をかけ合う等の関係が築けている。また、ご本人の役割を見つけ、無理のない範囲で家事を手伝っていただいたり、入居者の経歴や家族構成を把握し尊厳を持って対応している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日々のコミュニケーションの中で、不安なところや問題点を一緒に解決していく関係が築けている。毎月近況報告のお手紙を送付している。ブログについては人員の関係上滞ってしまう期間があり、定期的な更新が行えなかったが、現在はブログ担当者を育成し、定期的な発信に向けての動いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方との関係を把握しきれていない。ご家族から馴染みの方の情報を収集していくも、ご家族も知っておられないケースもある。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしている。近くの家族他の面会や家族の協力も得ながら馴染みの美容院・調味料の間屋・墓参り・孫の結婚式への参列等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様にしている。電話や年賀状等のやり取りも日常的である。</p>	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションや家事を通じて入居者同士の関わりが持てるよう声かけを行ない、関係作りに繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	両ユニット合わせて退去された方が3名で、3名共入院、退去となった。1名の方については、退去後、事業所内でのご本人の写真データが欲しいと希望があり、お渡しするまでご家族とのやり取りを行った。2名の方についてはその後のやり取りは出来ていない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに合ったケアを提供できるようアセスメントしたり、希望に沿うよう支援するためご家族にも適時（面会時、受診時等）話を聞いている。	利用者の習慣や好み等の基本情報を基に、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、家族情報も参考にしつつ連絡ノートやメモリアルブック（生活記念誌）等で共有している。利用者の強みに意識を向け、入院再入居後に掃除機がかけたい利用者の思いに応えた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェースシートに反映させる情報収集シートを用いて、過去の生活歴が分かるようにしており、ご本人に聞けない時はご家族からも情報を収集している。メモリアルブックへの反映については、今一度手順を整理し、職員への周知を促している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かな状態や発言を職員間で共有するために、連絡ノートへの記入や朝礼、専用のシートを用いて申し送りも徹底している。		

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>現状が変わるたびにご家族へ報告し、職員で意見を出し合い、課題に対し取り組み、ケアマネにも報告している。また必要に応じてカンファレンスの開催や主治医への相談をしている。</p>	<p>利用者毎の担当職員からの情報を計画作成担当者が集約し、担当者会議で原案を検討して面会時等に家族の同意の下、本案としている。毎月モニタリングを行い、半年を基本に計画を見直している。利用者の強みを活かした針仕事を立案し、雑巾縫い等にも挑戦され、役割作りに繋がった例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活記録、申し送りを元に検討はしており、状態変化によっては計画作成も交えての話し合いを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々の中で生まれるニーズをまとめ、個別ケアに展開している。訪問マッサージや訪問リハビリに加え、往診が可能な病院、訪問歯科等の提案・実践を行なっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>散歩は建物の周囲しか出来ていないが、地域清掃や日々のゴミ捨て、食材の買い出し等で外出機会を作っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医とご家族、職員間での密な情報共有のため、定期受診は2ヶ月に1度職員も同行、状況や人員によって、すべての受診に同行は出来ていないが、同行の可否に関わらず、受診用の情報提供シートは作成し、医療との連携を図っている。</p>	<p>殆どの利用者は利用前の主治医に継続受診となっており、定期受診は2カ月毎に職員も同行し、受診用情報提供シートにて連携を図っている。協力医も内科・眼科等、多科に亘り、又週1回の系列訪問看護師の来訪による健康管理や協力歯科医の往診もあり、安心して医療が受けられるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回、訪問看護が入っているが、相互の連絡体制、職員側の訪看内容の理解の面で協働体制にズレが生じた為、訪看側と再度話し合いを行い連絡体制の再確認を行い、現在は適切に入居者様の情報交換、情報共有を行え、連携が取れている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr. やご家族と情報交換をして今後のケアや方向性について話し合ったり、入院時には医療連携シートを活用し、事業所での様子を医療機関へ発信している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	運営懇談会で説明をしている。事業所として看取りの実績がない事もあり、現状は体制作りの行っている段階である。	利用契約時に基本的方針を説明し了解を得ている。現在は「看取り」は行わないが、重度化した際には本人・家族・主治医等関係者で話し合い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。看取りに際し往診可能な医師等、支援体制を整備しつつ、進捗状況を運営懇談会等で情報提供している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応マニュアルに沿った内部研修を開催、全職員が参加し、流れの確認を行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回、消防・避難訓練を実施しているが、地域との協力体制は出来ていない。また、水防法に基づき、水害を想定した避難訓練も実施している。	「消防計画等の防災計画に基づき」年2回の消防及び水害時避難訓練を階下の系列事業所と合同で実施している。又、今年度は避難訓練の増回も予定している。運営推進会議で口頭にて地域に災害時の一般的な協力要請を行うと共に災害対策として非常食・飲料水等の備蓄整備も行っている。	「消防計画等の防災計画に基づき」定期的な防災避難訓練は行われているが、消防署の立ち合いの下での実施までは至っていない。現場での避難誘導訓練を検証する中で避難行動・経路や手順書の見直し、地域との協力体制のあり方等、より実践的で実効性のある災害対策の構築を期待したい。

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	偶数月に開催される倫理綱領という社内研修で「利用者本位」を学び、お一人おひとりに適切な声掛け、ケアを行っている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もあり、否定より受容に努めつつケアに関わっている。「言葉遣いの適正に関する評価基準表」に基づく職員アンケートを実施し利用者に対する不適切な対応には指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	～しませんかという本人本位の声かけを行ない、自己決定が出来るよう対応を行っているが、認知症状の度合いによっては職員判断での声掛けや対応となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理のない範囲で家事（掃除や調理）をしていただいたりしているが、職員の出勤人数で差が出ていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や起床時などは一緒に服を選び、髪の毛などもブローしたり整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い出しに時に、希望の食材を購入して提供している。又、食後の下膳については、可能な方には食前・食後のお手伝いをお願いし、食事への楽しみに繋げている。	外部委託で予め調理された副食が届く。主食や味噌汁は職員が作り、利用者にはその食材の買い出し・米研ぎ・下膳等できる協力をしてもらい、共に食事の雰囲気作りを楽しんだり強みを発揮する機会になっている。行事の手打ちうどん作りでは家族と盛付けを楽しんだり家族との外食も行っている。	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の記録管理に注意し、特に水分量に注意している。飲み物の好みも伺って提供することで各々の状態を把握、又、水分の目標摂取量を設定、目安として水分量の確保を支援している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの声かけを行ったり、難しい場合には介助を行なっている。訪問歯科を利用されたり、口腔清掃を近隣の歯科で行なっている方もおられ、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失敗の少ない人には布パンツを勧め、定時で声かけや誘導を行なっている。	排泄記録表で週間・月間パターンを把握してトイレ誘導を基本としている。排泄の自立支援として入院中の紙おむつから紙パンツへの移行や利用者の殆どが紙パンツであり、その状態維持を図っている。跳ね上げ式の前手すりや夜間排泄時の転倒防止の為、床センサーマット設置等の環境整備もある。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量と運動量に注意し、また体を動かすよう声かけや体操、レクを実施している。必要な方には薬での調整を提案している。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人おひとりの曜日、時間帯を決めており、ゆっくり入っていただけるよう声かけしている。	週2回の入浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者負担を考慮し足浴やシャワー浴等に対応することもある。半埋め込み式家庭浴槽で浴槽台等の環境整備の他、壁には銭湯風に富士山を描き、冬至の柚子湯・五月の菖蒲湯等も行っている。	

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご本人からの希望や訴え、その日の体調に併せて休んで頂いている。居室温度や好みの布団など快適に入眠出来るよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>お一人おひとりの内服薬の把握を行ない、内服薬の変更時には体調や様子の変化に注意し、変更後の状態把握に努めている。降圧剤服用者は血圧の変化、副作用が出ていないか観察している。又、必要に応じて主治医に連絡し、服薬についての指示を仰ぐ。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>楽しみを持って生活できるよう支援しているが、一部の人にしか実施出来ない。 更なる情報収集と実施に向けての体制作りを進めていく必要がある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>買い物や、近隣の間屋へ調味料注文、ゴミ出しを手伝ってもらっている。また天気の良い日は近隣の散歩、季節に応じた外出行事を実施しているが、人員面で機会が限られている事もあり、機会を増やせるよう体制作りを行っていく必要がある。</p>	<p>日頃から近隣への散歩・買い物・ゴミ出しやとんど祭り等の地域行事にも出かけている。初詣・花見等の季節行事で普段は行けないような地域の神社を訪れ「非日常」を楽しむこともある。又、家族の協力も得ながら、馴染みの美容院・墓参り等で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しむこともある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>立替金という形で入居様が希望された物や好きなものを買えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( なんてん )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は入居者様から希望があれば対応しており、毎年入居者が年賀状を作成出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間の環境状態の確認をこまめに行うと共に、季節ごとに壁面飾りを掲示したり、花を飾るなど工夫している。	2階にある事業所リビングの窓から明るい光が差し込み眼下に可部線が見渡せる。季節の花や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者で作る貼り絵・習字・折り紙等の壁掛け作品で季節の移ろいが感じられるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビが見えやすい場所を希望される方が複数いる事を踏まえて席の配置を工夫しており、その他にも仲の良い方同士が座れるようにしている。またソファを設置しており、ご本人が居場所を選ぶことが出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	認知症の方の環境の変化を少しでも軽減させる為、入居時にご家族へ使い慣れた物の搬入を依頼している。又、入居者様の状態に合わせて居室内のレイアウトの変更等、ご家族の希望を聞いたり、相談をさせてもらいながら環境作りに取り組んでいる。	居室にはベッド・洗面台等が備え付けられ、鏡台・テレビ等、使い慣れた物や人形等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様になっている。換気や掃除を行い、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや床センサーマットを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホワイトボードに日付やその日の予定を掲示するほか、季節の分かるものを飾ったり出来ることを継続できるようにケアをしている。		

V アウトカム項目( なんてん ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行ない、倫理綱領という内部研修でも理念の下、研修を進めている。グループの理念と共に地域密着事業の運営理念も管理者、リーダー、職員で朝礼時に唱和して全職員が共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流行事として夏祭りや餅つき会、プールの開放などを開催し、地域住民が気軽に来所出来るよう取り組んでいる。 これからの季節に向けて、散歩や地域清掃等、外での活動を日常的に行えるよう、体制作りを進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	奇数月に開催しているひるCafé（認知症Café）で地域住民が参加され、様々なテーマの元、開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に開催している。町内会長や民生委員会、社会福祉協議会会長やご家族代表などに出席いただき、日々の取組み、地域交流行事などの報告を行っている。また、町内会長から出た意見をひるCaféのテーマに反映したり、行事内容の紹介を通じて、次回イベントの協力体制の構築に繋げている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営上、不明な点は電話連絡などで質問し、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠に関しては、線路に隣接しているため施錠をしている。現在、1名の入居者様に対し、夜間帯のみフロアの入り口を施錠する対応を取っているが、現場業務を行う中で、定期的に身体拘束に対する意識の共有が必要である。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所の内部研修や偶数月に開催される倫理綱領という社内研修で、虐待について研修を実施している。現場の状況によってはスピーチロックにあたる状況が見受けられる。 職員のストレスコーピングの為、メンタルヘルスの内部研修を行った。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学べていない為、来年度に参加後、全職員へのフィードバックを予定している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前から適宜必要書類などの説明を行ない、ご家族に不明点が生じた際には、電話連絡などでも解決出来る体制を作っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回の運営懇談会を開催し、ご家族からの要望や疑問点を聞き取り、アンケートなども活用している。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ間のチームミーティング、リーダーミーティング、管理者とリーダーとの部門ミーティング、代表者と管理者とのミーティングを月にそれぞれ開催しており、現場の声が代表者へも入るような仕組みを作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期に一度、職員一人ひとりの目標を立て、達成具合に応じ賞与に反映している。職員のモチベーションアップに繋がるよう、基本給ベースから努力・実績ベースに変更をして取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修の開催、外部研修への参加を勧めている。しかし勤務の都合上、参加できない職員が発生した為、広島市小規模事業所介護人材育成支援事業を活用し、職員からテーマを募り、そのテーマに沿って外部から講師に来て頂き、研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループの他事業所職員との交流はあるが、外部事業所とは交流が作れておらず、今後は外部事業所との交流作りの機会を模索していく必要がある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規利用者は、併設してる小規模多機能センター緑井からの入居のため、事前に小規模多機能側から情報を発信、情報受け取り後についても職員同士でスムーズな情報共有が実施出来た。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>管理者・計画作成担当だけでなく、ユニットリーダーも窓口となり、現場職員もご家族とのコミュニケーションを密に取っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>段階を踏んでケアを提供していくよう職員同士が日々話し合いを実施している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者様同士の関係が築けており、出来る人が出来ない人を手伝ったり、声をかけ合う等の関係が築けている。また、ご本人の役割を見つけ、無理のない範囲で家事を手伝っていただいたり、入居者の経歴や家族構成を把握し尊厳を持って対応している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日々のコミュニケーションの中で、不安なところや問題点を一緒に解決していく関係が築けている。毎月近況報告のお手紙を送付している。ブログについては人員の関係上滞ってしまう期間があり、定期的な更新が行えなかったが、現在はブログ担当者を育成し、定期的な発信に向けての動いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方との関係を把握しきれていない。ご家族から馴染みの方の情報を収集していくも、ご家族も知っておられないケースもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々のレクリエーションや家事を通じて入居者同士の関わりが持てるよう声かけを行ない、関係作りに繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	両ユニット合わせて退去された方が3名で、3名共入院、退去となった。1名の方については、退去後、事業所内でのご本人の写真データが欲しいと希望があり、お渡しするまでご家族とのやり取りを行った。2名の方についてはその後のやり取りは出来ていない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに合ったケアを提供できるようアセスメントしたり、希望に沿うよう支援するためご家族にも適時(面会時、受診時等)話を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェースシートに反映させる情報収集シートを用いて、過去の生活歴が分かるようにしており、ご本人に聞けない時はご家族からも情報を収集している。メモリアルブックへの反映については、今一度手順を整理し、職員への周知を促している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かな状態や発言を職員間で共有するために、連絡ノートへの記入や朝礼、専用のシートを用いて申し送りも徹底している。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状が変わるたびにご家族へ報告し、職員で意見を出し合い、課題に対し取り組み、ケアマネにも報告している。また必要に応じてカンファレンスの開催や主治医への相談をしている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、申し送りを元に検討はしており、状態変化によっては計画作成も交えての話し合いを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々の中で生まれるニーズをまとめ、個別ケアに展開している。訪問マッサージや訪問リハビリに加え、往診が可能な病院、訪問歯科等の提案・実践を行なっている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	散歩は建物の周囲しか出来ていないが、地域清掃や日々のゴミ捨て、食材の買い出し等で外出機会を作っている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医とご家族、職員間での密な情報共有のため、定期受診は2ヶ月に1度職員も同行、状況や人員によって、すべての受診に同行は出来ていないが、同行の可否に関わらず、受診用の情報提供シートは作成し、医療との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回、訪問看護が入っているが、相互の連絡体制、職員側の訪看内容の理解の面で協働体制にズレが生じた為、訪看側と再度話し合いを行い連絡体制の再確認を行い、現在は適切に入居者様の情報交換、情報共有を行え、連携が取れている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr. やご家族と情報交換をして今後のケアや方向性について話し合ったり、入院時には医療連携シートを活用し、事業所での様子を医療機関へ発信している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	運営懇談会で説明をしている。事業所として看取りの実績がない事もあり、現状は体制作りの行っている段階である。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応マニュアルに沿った内部研修を開催、全職員が参加し、流れの確認を行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回、消防・避難訓練を実施しているが、地域との協力体制は出来ていない。また、水防法に基づき、水害を想定した避難訓練も実施している。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	偶数月に開催される倫理綱領という社内研修で「利用者本位」を学び、お一人おひとりに適切な声掛け、ケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	～しませんかという本人本位の声かけを行ない、自己決定が出来るよう対応を行っているが、認知症状の度合いによっては職員判断での声掛けや対応となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理のない範囲で家事（掃除や調理）をしていただいたりしているが、職員の出勤人数で差が出ていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時や起床時などは一緒に服を選び、髪の毛などもブローしたり整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い出しに時に、希望の食材を購入して提供している。又、食後の下膳については、可能な方には食前・食後のお手伝いをお願いし、食事への楽しみに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の記録管理に注意し、特に水分量に注意している。飲み物の好みも伺って提供することで各々の状態を把握、又、水分の目標摂取量を設定、目安として水分量の確保を支援している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアの声かけを行ったり、難しい場合には介助を行なっている。訪問歯科を利用されたり、口腔清掃を近隣の歯科で行なっている方もおられ、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失敗の少ない人には布パンツを勧め、定時で声かけや誘導を行なっている。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量と運動量に注意し、また体を動かすよう声かけや体操、レクを実施している。必要な方には薬での調整を提案している。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人おひとりの曜日、時間帯を決めており、ゆっくり入っていただけるよう声かけしている。		

自己評価	外部評価	項目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>ご本人からの希望や訴え、その 日の体調に併せて休んで頂いて いる。居室温度や好みの布団な ど快適に入眠出来るよう支援 している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>お一人おひとりの内服薬の把握 を行ない、内服薬の変更時には 体調や様子の変化に注意し、変 更後の状態把握に努めている。 降圧剤服用者は血圧の変化、 副作用が出ていないか観察して いる。又、必要に応じて主治医 に連絡し、服薬についての指示 を仰ぐ。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>楽しみを持って生活できるよう 支援しているが、一部の人に しか実施出来ない。 更なる情報収集と実施に向けて の体制作りを進めていく必要 がある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>買い物や、近隣の間屋へ調味 料注文、ゴミ出しを手伝って もらっている。また天気の良い 日は近隣の散歩、季節に応じ た外出行事を実施しているが 、人員面で機会が限られている 事もあり、機会を増やせるよ う体制作りを行っていく必要 がある。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>立替金という形で入居者が希 望された物や好きなものを買 えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( ひいらぎ )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は入居者様から希望があれば対応しており、毎年入居者が年賀状を作成出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間の環境状態の確認をこまめに行うと共に、季節ごとに壁面飾りを掲示したり、花を飾るなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビが見えやすい場所を希望される方が複数人いる事を踏まえて席の配置を工夫しており、その他にも仲の良い方同士が座れるようにしている。またソファを設置しており、ご本人が居場所を選ぶことが出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	認知症の方の環境の変化を少しでも軽減させる為、入居時にご家族へ使い慣れた物の搬入を依頼している。又、入居者様の状態に合わせて居室内のレイアウトの変更等、ご家族の希望を聞いたり、相談をさせてもらいながら環境作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホワイトボードに日付やその日の予定を掲示するほか、季節の分かるものを飾ったり出来ることを継続できるようケアをしている。		

V アウトカム項目( ひいらぎ ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームガーデンの家

作成日 令和2年 4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催を土曜日で固定開催としていた為、会議に市町を取り込めていない。	開催曜日の調整を行い、地域包括支援センターの運営推進会議の参加へと繋げる。	最寄りの地域包括支援センターに連絡をし、曜日調整を行う旨を伝え参加の承諾を得た。	令和2年12月 (新型コロナウイルスの影響次第)
2	13	消防訓練を実施する上で、消防署の立ち合いが出来ていない。	消防署立ち合いの訓練を行う事で、施設内での共有事項や、確立すべき動きを知る事が出来る。	今年度の消防計画を5月と11月に設定、11月の訓練に消防署立ち合いで実施予定。	令和2年11月 (新型コロナウイルスの影響次第)
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。